

# まち会だより

'04

初冬号

vol. 14

■発行：特定非営利活動法人 調布まちづくりの会  
〒182-0022 東京都調布市国領町 3-10-14・TEL&FAX:0424-88-4022  
e-mail : machikai@annie.ne.jp http://www.annie.ne.jp/~machikai/  
■発行日：2004年12月10日

## 2004年度 がスタートしました

2003年通常総会にて、当会の定款が改定され、会計年度を10月1日より翌年9月30日までとなりました。今年は4月1日から9月30日までを、2003調整半年度とし、定款改定の経過措置として活動してきました。そのようなことで、今年は、2度も新年度を迎えることになりました。10月1日より新しい2004年度がスタートしました。2004年度通常総会が12月11日（土）に開かれ、2003調整半年度事業報告、決算報告、及び今年度事業計画、予算計画の各議案について審議されます。なお、今年度から役員の任期が2年となり、役員の方には、長くお世話になります。重点目標「自己財源の確保」「部会活動の充実」「協働のまちづくり活動の推進」が提案されます。

## 市の委員会等 に当まち会会員が参加することになりました

市に関連する委員会や懇談会に当まち会の会員がメンバーとして参加することになりました。そのひとつは、調布市住民自治基本条例に関する市民懇談会の公募に応募して当選した鉄矢悦郎さん、あとひとつは市の都市整備部街づくり推進課からの依頼で調布市都市計画審議会委員に当まち会代表で大塚誠さんです。おふたりの活動に声援を送りましょう。

## 社会福祉協議会より『感謝状』 をいただきました

第16回調布市福祉大会（10月5日）で、社会福祉協議会（恩田章司会長）より当会に対し、“多年にわたり社会福祉活動に参加し地域福祉の向上に貢献された功績”があるとして、『感謝状』をいただきました。会員の方々の日頃の努力を見つめていただいていることに感謝したいと思います。

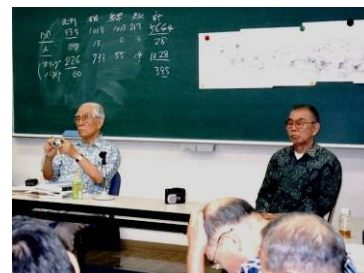
## 市民の「抑留体験のお話」（市と共催）に多くの人が集まりました

8月に文化会館たづくりを中心に開催された市の「2004 平和の礎展」の関連事業として、市の共催を受けて平和をテーマに「市民が語る私の戦争体験」と題して、おしゃべりサロン「相互塾」を8月7日と8日の両日、開催しました。今年は第2次世界大戦の戦後、シベリアとジャワ島で抑留の体験をされた方に、お話をいただきました。7日はシベリアで佐々正さんと相原茂さん、8日はジャワ島で小山芳雄さんと大庭定男さんでした。評判が良く、両日で参加者が132人と、そして、フロアを含めた話し合いも活発で、素晴らしい「相互塾」になったと思います。市の担当は生活文化部市民参加室文化交流係で、「平和展」から来られた方がかなりおられ、共催したことは成功でした。来年も共同で、企画の検討を始めました。

この後8月末に相原さんが亡くなられました。冥福をお祈りします。



佐々さん 相原さん



大庭さん 小山さん

# サロンネットワークの「相互塾」部会

## ■おしゃべりサロン「相互塾」の延べ参加者数が、1500人を突破。

おしゃべりサロン「相互塾」も10月で、57回を重ねてきました。第57回おしゃべり「相互塾」で、第1回からの延べ参加者が、4年8カ月で1500人を超え、定着したのではないかと思います。そして、今年はサロンネットワーク元年として、「午後のティーサロン」「うたごえサロン」「数学おあそびサロン」とともに併行して動き始めました。10月には「うたごえサロン」が「相互塾」から離れて運営されるようになりました。各サロンの現状を見てください。

### ●第56回「相互塾」：「子どもたちの夢と悩み」松尾直博さん（東京学芸大学助教授）

9月27日、スクールカウンセラーをされている松尾先生は、ここ20年の子どもたちの気持ちの変化についてのデータを示され、子どもたちの本当の姿の一端に触れることができ、意見交換が大変示唆に富んだものになりました。このような充実した時間を持たしていただいた松尾先生に感謝したいと思います。雨の中を出席していただいた人も充実した時間を持てたと感じていただいたのではないのでしょうか。



### ●第57回「相互塾」：「地域通貨さ～らと地域コミュニティ」尾辻義和さん（さ～らの会事務局長）

10月25日、尾辻さんに地域通貨「さ～ら」について現状を詳しく話していただいた。会員が80人前後まで広がっていて、法人として4つの商店や企業が参加していることが話題になって、参加された飛田給の商店街の人は、商店や企業が参加することについて関心を待たれ、その話題が中心となりました。地域通貨「さ～ら」が商店街の活性化につながって行けばよいと、期待が持てました。



### ●第58回「相互塾」：「ありがとう！『お惣菜は家族愛』」三室洋子さん（株）ミムロ取締役）

11月29日、お惣菜という私たちにとっては、大変親しみのあるテーマで、いろんなところから関心を示していただきました。語り手が久しぶりに女性で、会場が華やかな雰囲気となって、楽しい会合になりました。「お惣菜」という言葉は語り手のおしゅうとさんが物に心を込めるという意味で、「総」という字から変えられその後定着したそうで心温まるものを感じました。中食の普及など、参加者全員に食について語っていただき、和やかに笑顔で終了しました。



### ■第10回「午後のティーサロン」：「永遠のマドンナ！原節子 pt2～小津安二郎作品を中心に～」

10月31日、前回に続いて原節子を取り上げ、「晩秋」「麦秋」「東京物語」の3作品を振り返りました。小津安二郎としても脂の乗った時期の作品で、原節子も美しく、日本女性らしく楚々として控えめだが、芯の強さを持った女性を、静かに淡々と表現していくところが堪能させていただきました。参加された方に90歳を超える人がおられ、企画しているわれわれも嬉しくなりました。感謝しています。第10回までの延べ参加者数は218人です。

### ■第10回「数学おあそびサロン」：ピーター・フランクルの「数学の愛しかた①」のビデオを観る。

10月31日、今年1月にスタートし、10回目を迎えました。今までに子どもたちは10数人来てくれましたが、会員（生徒さん）として定着したのは、4人となりました。特徴的なことは4人とも調布市在住ではなく、近隣の市に住んでいる子どもたちです。調布の子どもたちが来てくれるようにどうすれば良いかが、私たちの大きな課題となりました。市報に募集の掲載とか、青少年交流館、青少年ステーション（CAPS）にチラシを置いていただくことは始めましたが、現在の4人との出会いから考えても、最も効果があるのは口コミで伝えていくことのようにです。読者の皆さんのPRをお願いします。今まで先生としては、高森さん、山口さん、大中さん、百瀬さん、井上さんと森下で支えてきました。

■「うたごえサロン」は、新年度10月から「相互塾」から離れて運営する方が、いろんな意味で相應しいと考え、独り立ちすることになりました。「相互塾」に関わっていただいた方々に支えていただいておりますが、この場を借りてお礼申し上げます。「うたごえサロン」の今後の発展を願っています。

### ■近々「調布不思議発見」常設展オープン！

今年1月の1カ月間、常設展示を実現しましたが、その後事情があってクローズしていました。柴崎駅の近くにある料亭「鮎宿」のご主人の好意で、宴会場の壁面に掲示しても良いことになりました。過去2回の募集作品から10数点を選び、常設展示にしたいと考えています。長年の懸案が成就することになり、感激していますが、展示ができあがれば、第3回「調布不思議発見」の実施に向けて進めます。

### ■「調布まちかど博物館（ミュージアム）」実現に向けて、新しいサロンを考えています。

景観部会の成果を活用し、エコミュージアムの発想で、調布のお宝を探り、広く人材を求め、行政も巻き込んで進めて行きたいと考えています。会員を始め、広く関心のある方の参画をお願いします。

# 連携するサロン (新しい居場所の創造)

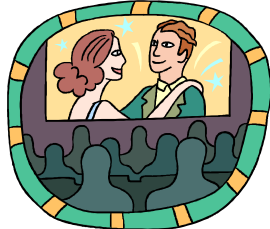
大家族のソーシャル・ファミリーへ：多世代の対話&会話

## 午後のティーサロン

音楽&映画への語らい

懐かしの映像アーカイブ

1, 4, 7, 10月・第2日曜  
午後2時~4時半  
総合福祉センター視聴覚室



## 数学おあそびサロン

楽しんで数学の壁を克服しよう

"えんがわ"での学習

毎月・第4日曜・午前10時~12時  
総合福祉センター 2階会議室



## おしゃべりサロン「相互塾」

語り手の話を切っ掛けにみんなで語りましょう

寺子屋風井戸端会議

毎月・第4月曜または第5月曜  
午後7時~9時  
総合福祉センター視聴覚室  
⇒【場所の拡大へ】



## 新サロンの設立

「調布不思議発見」常設展示場オープン  
「調布まちなかミュージアム」  
「国際交流」  
「映像&図書カフェ」  
「美術観賞談義」  
「映画の街・調布」



## うたごえサロン

童謡からシャンソンまで

【相互塾より離れて独立】

上を向いて歌おう

毎月・2回・午後2時~4時  
文化会館 たづくり 研修室



【歓迎】相互塾企画ミーティングを、相互塾の前週火曜日(12月14日、1月18日、2月22日)午後7時より総合福祉センター2階で開いています。会員でない方も歓迎。遠慮なく積極的に出向ください。

【案内チラシ】は、各図書館(分館を含む)、3公民館、総合福祉センター、社会福祉協議会、各地域福祉センター、各児童館・学童クラブ、武者小路実篤記念館、生涯学習情報センター、郷土博物館、市民センター、電通大総務部、YWCA国領センター、子ども家庭支援センターすこやか、総合体育館、クッキングハウス、ちょうふだぞう、などに置かせていただいていますので、お近くにお出掛けのときにご覧ください。

■ 10月5日に仙川の音楽や芝居小屋のある複合施設に関する私たち部会の質問及び要望について市の職員の方たちと話し合いをもつことができました。その際に提出した文書に対し、調布市から回答が届きました。20数箇条に亘る質問・要望と回答の一部をご紹介します。

質問：図面なども含めてこの施設の具体的な情報が一般の市民に把握できない状況のなかでは、きちんとした市民の声を収集できないのでは？例えば、模型を使って、設計者が説明し、市民と対話をするといった企画も必要だと思います。また、現在行われている検討委員会の位置づけや役割、まとめられた提言の実効性についても教えてください。



回答：設計や計画等がまとまるなどの節目において情報の公開に努めて参ります。模型については委託業務に含まれていないため困難です。検討委員会については音楽・芝居小屋の管理運営や事業について市民参加により検討及び提言を求めため設置したものであり、市は提言を尊重しつつ基本計画、運営計画等を策定していきます。

質問：調布市福祉のまちづくり条例の施設整備マニュアルおよびハートビル法とこの施設の整備内容との関連付けはどのようになっていますか。



回答：調布市福祉のまちづくり条例やハートビル法に基づき施設の整備を行います。

市から届いた回答は概ね要望に対し前向きな内容になっていました。これからは、この施設の実設計が出来た段階で再度、市と話し合う機会を設けるよう働きかける予定です。なお、質問・要望及び回答の全文はまちのバリアフリー部会のホームページを参照してください。

■ 国領北口に 2005 年 2 月オープン予定の市民活動支援センターを内覧する機会があり、当部会のメンバーも参加することができました。参加者は施設内のエレベーター、トイレ、手洗いなどについてみんなが使いやすくなるための意見を出し合い、是正できる部分は是正していただくよう市の職員の方をお願いしました。また、オープン後もバリアフリーニーズに対応できる運営上の取り組みの必要性について提案しました。

■ フォトアルバム  
02.12~04.10



02.12.14 ワークショップ  
まちのバリアフリーフォト  
ウォッチング



03.11.05 学芸大ユニバーサル  
デザイン展参加



04.01.07 定例会



04.01.29 江戸川区視察



04.03.03 飛田給駅周辺視察



04.05.08 ワークショップ  
みんなで話そう調布の  
バリアフリー



04.10.06 市民活動支援  
センター視察

■ 愛沢法子・・・網膜色素変性症という遺伝性の病機視覚障害です。網膜を形成する細胞の中のたんぱく質がひとつ足りないそうです。壊れた細胞の部分が見えなくなるようで、部分的に見えたり、見えなかったりします。まん丸おっ月さんがまん丸くみえなかったり、数字の3が8なのか3なのかわからなくて目ん玉キョロキョロさせてやっと見える。最近は何を見ることに疲れを感じて、メガネさえも使わなくなったかな。こんなわたしの趣味は幾つありますが、やはり音楽活動でしょうか。「姫としもべたち」というグループ名でももちろんわたくしが「姫」でございます。メインボーカル・フルート・ギターを担当。しもべ1はギター、しもべ2はキーボード。年間10回程ライブをやっています。98年6月に結成して以来、6年もダラダラと現在まで活動中。わたしたちの音楽が風によって誰かの心にとまればいいなと思いつつ唄っているのですが、困ったことにこの「姫」は音痴でありまして、その上前奏や間奏にフルートを入れるので忙しいのでございます。でもこれがわたしのバンドの売りかな？先日府中市の身体障害者入居施設「みずき」で唄ってきました。みなさん、涙して聴いてくださいました。(ホンとかいな)今年のラストライブは12月10日。東京駅の北口の大きなクリスマスツリーの前で3時頃唄ってます。

■ 東 直史・・・「障害」をもっている人たちの介助の仕事をしています、“あずま”です。住まいが世田谷なので、お隣とはいえ調布のことは数年前までほとんど何も知りませんでした。それが最近では役所や図書館をはじめ、買物に、飲み会にと足しげく通うようになり、今ではすっかり“市外在住調布人”になってしまったようです。

■ 新井昭子・・・まちのバリアフリー部会私が調布の都市計画マスタープランづくりに一人の市民としてかかわったのは、もう8年前。それから八王子にある「わかこま自立生活情報室」で、障がいをもつ人たちの自立をサポートする活動に数年間かかわりました。「でもやっぱり自分の足元、調布のまちづくりについて考え活動していきたい」そんな思いから、「まちのバリアフリー部会」を始めました。京王線の連続立体交差事業の工事もいよいよスタート。調布のまちは大きく変わろうとしています。「地下化した跡の鉄道敷地のあり方」について考える検討会では委員の一人として私なりの意見を伝え、跡地が少しでも市民にとって利用しやすく、有効なものになるようにしたいと考えています。個人的には車いすで日本のあちこちを旅したり、その土地その土地のおいしいものを食べ歩いたりしています。ちなみに今いちばんのお気に入り「宇都宮の餃子」。今度一人前6個の餃子、10人前に挑戦しようと“密かに”思っています。

■ 沖崎 剛・・・当部会がスタートして約2年と4ヶ月経ちました。活動をとおしていろんなことを学ぶことができ、暫くすると高齢になる私としてはとても有意義な関わりをさせていただいております。

■ 小林清香・・・“温まっていい気持ち”  
近頃「日帰り温泉」に凝ってます。自然に囲まれての温泉は、とてもいい気持ち。ちょっと遠出して行った埼玉の「花和楽の湯」KAWARAと読みます。元は瓦工場の跡です。浴衣、岩盤浴専用ウェア、バスタオル、タオル、茶菓子がついて時間無制限でたっぷり汗を流せます。岩盤浴は低温サウナで男女混浴、ぐっすり寝ている人もいます。一人よりグループのほうが楽しめます。茶菓子の草団子、たった二個で物足りないと言いましたが、おいしかったです。

■ 戸井田 眞・・・わたくしは電動車椅子に乗り生活をしている者です。このごろは、バリアフリー、ユニバーサルプランなどという言葉を目や耳にするようになり、道路・交通・建物の改善が進み外出しての行動範囲が広がってきています。調布を電動車椅子で歩き30年近くなりますが、はじめの頃の町はバリアフルでせつかくの車も利用価値の少ないものでした。しかし、活動しやすくなってゆく町に行くにつけ、こうすればもっと良いのに、こうしたいとの思いがわいてきます。住み良い調布の町づくりを考えている方、バリアフリーに詳しい方たちと顔を合わせ月に一度話し合い、またときに調べに出かけるバリアフリー部会はわたくしにとって重要で楽しい会となっています。

■ 松本八重子・・・趣味はバードウォッチング。私の体では不可能だと思われる野や山、川辺や海辺を駆け巡りたくてたまらない野生おばさんです。以前は鳥を見て何が面白いのかと思っていましたが、今は、“鳥”という窓を通して、いろんなことを学んでいます。自然の癒しということに加えて、地球環境の悪化や災害など、鳥は語らずして、多くのことを教えてくれました。突き詰めれば、人はどうやって“共に生きていく”かということ学んでいるのだと思います。ショッピングや人の集まる所は大の苦手。でも、少しでも共に楽しく生きるために、そして弱者が安心して生活できる街、出歩ける街とはどんなものなのか、真面目に考え続けています。まちバリア部会の皆さんと出会って、だんだん固くなっていく頭と体が柔らかくなっていくような希望が出てきました。今後ともよろしくお願いします。

# ちょうふ地域通貨さ～らの会近況報告

## 使いやすい地域通貨に向けてさ～ら紙幣導入試行

ちょうふ地域通貨さ～らの会では、9月12日(日)、10月24日(日)の2回にわたって、さ～らの普及、さ～ら紙幣の試行、他団体との協力などの実験とも言えるイベントを実施しました。題して「クリーンアップ(ごみ拾い)」に参加して地域通貨さ～らをもらおう！」

右の写真は、調布駅南口駅前での一コマです。当日ごみ拾いに参加してくれた方にさ～ら紙幣が「対価」として支払われ、受け取った紙幣は現在加盟中の市内のさ～ら協力店(4店舗)などで使えるというものです。

また、この日の午後開催予定の「泥だんご交流会」とも連携して、ごみ拾いで「稼いだ」さ～らを参加費の一部に当てられるように企画されました。

これまで、公共的な場所での掃除やごみ拾いなどのボランティア活動は無償で行われるのが当たり前でした。今回の企画では、その行いに感謝の気持ちを表す対価として「さ～ら紙幣」が支払われました。受け取られた「さ～ら紙幣」は、会員が提供するさまざまなサービスを受ける際に使うことができ、そこで新しい交流が生まれ、地域コミュニティの活性化に貢献することが期待されます。一方では、市内のお店で「さ～ら紙幣」が使われることで、地域経済への貢献も期待されます。普通の「お金」はそれが循環することで経済が潤いますが、「さ～ら」がより多く循環することは、地域経済のみならず、地域コミュニティにも潤いをもたらすという点が重要なポイントです。



## さ～らが一周年

昨年の10月に発足した「ちょうふ地域通貨さ～らの会」は、一周年を迎えた記念のイベント「市民コミュニティと地域通貨の可能性」を12月5日(日)、クッキングハウスにて開催しました。

当日は、クッキングハウスのスタッフの支援もあり、会場にきていただいた方々と温かく、とても良い雰囲気でした。新たな会員も増え、少しずつではありますが、会のささやかな活動がひろがっていることが感じられるイベントとなりました。

地域通貨部会は、ちょうふ地域通貨さ～らの会の発足準備から関わり、現在も支援をしています。地域通貨部会では、まち会で地域通貨をどのように活用できるかを研究課題にしています。皆さんの積極的なご参加をお待ちしています。(文責 尾辻)

# 情報バリアフリー部会



## 障害者基本法改正と日本工業規格②

前号で書きましたように障害者基本法が一部改正され、第十九条で情報バリアフリーに向けた国及び地方公共団体の義務規定が加えられました。併せて技術的なガイドラインとなる「高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス」の JIS 規格「JIS X 8341-1～3」も公示されました。現在、来年に向け第四部、第五部（電気通信設備、事務機器に関するもの）の公示も策定作業が進められ、サポート ComPortML メンバーで IBM 大和研究所に勤める若手研究者も委員として参画しています。

とくに、第三部のウェブコンテンツ JIS に関しては公的機関のみならず、企業の Web サイト担当や NPO にも良い影響が出始めてきました。

もちろんアクセシビリティ(\*1)に配慮されていないサイトが圧倒的に多いものの、W3C(\*2)の各種ガイドラインや今回の JIS X 8341-3 などを尊重したアクセシビリティの高いサイト作りに関するセミナーが、6 月以降企業や NPO によって立て続けに開催されています。

例えば周辺自治体では、三鷹市、武蔵野市、西東京市など、企業では IBM や富士通などが以前からサイトに関する独自の指針を掲載しています。

### ・三鷹市ホームページの考え方

<http://www.city.mitaka.tokyo.jp/a014/p003/t0030018.html>

### ・武蔵野市のホームページの考え方

<http://www.city.musashino.tokyo.jp/concept.html>

### ・西東京市 Web について

<http://www.city.nishitokyo.tokyo.jp/about/>

### ・IBM ガイドライン

<http://www-6.ibm.com/jp/accessibility/guideline/index.html#navskip>

### ・富士通ウェブ・アクセシビリティ指針

<http://jp.fujitsu.com/webaccessibility/v2/>

また、早くからこれらの啓発、普及、JIS 規格制定に携わってきた企業などから JIS X 8341-3 の解説書も出されていてとても参考になるかと思えます。

・『ここから始める Web アクセシビリティ』浜田英雄他著、2004/06、ぎょうせい刊

・『Web アクセシビリティ JIS 規格完全ガイド』アライドブレインズ編、2004/07、日経 BP 刊

こうした流れが主流となり Web に限らず、さまざまな情報のアクセシビリティが高まっていくことを願います。

\*1 アクセシビリティ: 何かに人間や道具が接触でき、利用や操作が可能な状態をさす。

\*2 W3C: World Wide Consortium の略、Web で使われている技術の標準化と推進を行なっている、日本からも積極的な参画がある国際的な NPO。

## 調布市総合福祉センター 2 階

### 「フリースポット化プロジェクト」続報

昨年調布市社会福祉協議会に提案、実証実験などをしてきましたが、今年 9 月から調布市総合福祉センター 2 階の全フロアが無線 LAN(\*)を用いたフリースポットになりました。

利用する市民の情報基盤としてブロードバンドによるインターネット環境が整い、市民がボランティア、NPO 活動に活用して行くといいですね。

市民自治を進める情報共有の道具のひとつとして今後すべての公的、公共の場が整備されていくことを願います。

\*OCN-アッカネットワークスにバッファローのエアーステーション(ブリッジタイプ 11g&11b 同時接続タイプ)が使われています。通路側 2 か所にアクセスポイントが設置されていますので、快適なブロードバンド・インターネット環境が無料で利用できます。

注: 利用に当たってはまず利用登録が必要です。そこで発行されるセキュリティーキーなどを自前の PC に設定してから利用できます。利用規約、登録用紙は下記サイトのものをご利用ください。また、センター窓口にも置いてあります。

詳細については⇒

<http://www.annie.ne.jp/~machikai/jouhou/johotop.htm>

2002 年 4 月、情報バリアフリー部会を発足、障害者 IT コミュニケーションサポート活動を続けてまいりましたが、2004 年 9 月末日（改正年度末）をもって活動を終了させていただきます。

2 年半にわたり、さまざまなご支援、ご協力を多方面よりいただきました。ありがとうございました。（大脇）

※サポート ML と定例茶話会（毎月第 2 日曜午後、ボランティア活動室）は新たな担い手によってボランティア活動として継続しています。関心のある方はそちらに参加してください。

使い古された言葉を使って作句すると、俳句の世界では、こんな言い方をされ嫌われます。

地方自治、住民自治という言葉もその域に近づいてきた感じですが、実態面では依然として無関心な人が多いのが現状ではないでしょうか。困った事です。

先頃、調布市では、市民の“自治”を育むものであることを目指した、「社会教育計画（案）」が教育委員会に答申されました。この計画の策定に当たっては、社会教育委員4人と公募市民28人で構成された起草委員が、コンサルなどは一切入れないで、予算もコピー代、庁内印刷代、2回の研修会の講師料以外は殆ど使わず、2年7ヶ月をかけて、延べ127回の会議を重ね、完成させたものです。そして、社会教育計画策定そのものが市民の学習であり、市民参画でした。

この計画は、理念から始まって、事業、施設、団体・サークル支援、職員・スタッフ配置、市民による教育ガバナンス推進の諸計画が“学習”をキーワードとして構成されています。特に事業の中には、「まちづくりのための地域課題は、その当事者はもとより、広く市民の参加を求めながら課題解決に努めるべきである。」と謳われています。

また、団体・サークル支援では、今後の生涯学習を含めた社会教育を展開するには、行政だけでは社会・公共的な課題をすべて解決する事は、行政の資源（財政、人材、施設など）から判断して、厳しい面があり、かつ柔軟な発想が可能なNPO法人を含めた市民団体との連携・協力を得て対応する必要があるとしています。そして、社会教育に基づくまちづくりを目的として設立されるNPO法人に対しては、行政は支援することが示されています。

市民参画にも色々な段階があります。「形だけの参画」から、「意見を求められ、情報が与えられる」段階へ、「市民と行政と一緒に決定する」「市民が情報を収集し、主体的に取りかかり、一緒に決定する」段階へ上って行く事が求められています。

1998年10月に発足し、2000年4月にNPO法人と成った、調布市では、先駆的な当会があります。今まで述べてきた社会教育計画を先取りして、既に実践している会です。そして構成員の思想や生活を反映した個性豊かな団体として評価されています。しかし、多くの一般市民からは、何か遠い存在に感じられていることも否めないと思います。

“おしゃべりサロン「相互塾」”、“うたごえサロン”などすばらしい事業を行なって、敷居は相当低くなっている筈なのですが。



会員の宇根さん

## お知らせ

### ■まち会定例会

1/12（水） 19：00～21：00 調布市総合福祉センター2階201会議室

2/2（水） 19：00～21：00 調布市総合福祉センター2階201会議室

### ■おしゃべりサロン「相互塾」関連

12/20（月） 19：00～21：00 調布市総合福祉センター4階視聴覚室

・磯田武雄さん「山に魅せられ50年～あるくことは健康の原点～」

1/24（日） 19：00～21：00 調布市総合福祉センター4階視聴覚室

・門傳良男さん「地図と磁石は恋人同志～山あるき・ウォーキング」

2/28（月） 19：00～21：00 調布市総合福祉センター4階視聴覚室

・柳平英孝さん「音楽と私・フルート演奏」

### ■午後のティーサロン

1/9（日） 14：00～16：30 調布市総合福祉センター4階視聴覚室 「欧州の映画音楽」

### ■まちのバリアフリー定例部会

12/18（土） 15：00～17：00 調布市文化会館たづくり11階みんなの広場

1/15（土） 14：00～16：00 調布市文化会館たづくり11階みんなの広場

入会案内：いつでもどなたでも自由に入会できます。入会希望の方はお手数ですが、会費2004年度分2000円を郵便局にて払い込みください。郵便払込口座：調布まちづくりの会 00150-1-136746

編集後記：今回は相互塾部会が編集を担当しました。おおいそぎで作りましたので、統一の取れていない体裁になった。回数を重ねていき、良くなっていくことを期待していただきます。（森下）